

高校生との意見交換会 報告書

学 校 名	兵庫県立八鹿高等学校		
年 月 日	令和8年7月8日	会 場 名	兵庫県立八鹿高等学校 2階 第2講義室
開始時間	13時00分	終了時間	14時30分
参加数	生徒 12人	議員 6人	合計 18人
班 長	藤原芳巳	報 告 者	津崎和男、高橋展子、前田 稔、藤原芳巳
班 員 名	(グループA) ○津崎和男、藤原芳巳 (グループB) ○高橋展子、川瀬 稔 (グループC) ○前田 稔、西垣 司 (○印…進行役)		
テ ー マ	高校生の「あったらいいな」をかなえるまち ～学校・地域で今困っていることを一緒に解決しましょう～		

グループA



【出された意見・アイデア】

(公共交通)

- 交通手段
- 電車の数
- バスの本数
- デマンド交通

(人)

- 楽しい物←ターゲットを決める
- 定住したい、また来たいと思えるまちづくり
- 誰もが笑って住める場所
- 生活できるくらい働ける環境
- 都会の子育て世代にも働きかける
- 学校(小・中)の人口が少なく、統合してしまう(多い)

(つながり)

- イベント
- 地域の人と関わりが持てる場所

- ・多くの人が利用するメディア（SNS等）
- ・地域の産物のブランド化→その地域で体験できる
- ・良い物をPR
- ・自然の体験やその魅力を見てもらう

- ・店の数↑ ・麻辣湯のお店が閉店しそう（閉店したかも？） ・都会の人が来たいと思う特産品の店をつくる
・ごはん屋 ・看板や広告でのうまい宣伝！ ・コンビニ

- ・空き家多い ・ホテルとして利用 ・空き家バンクの活用

【グループAまとめ】

安心安全な通学

- ・バスや電車の本数増を。

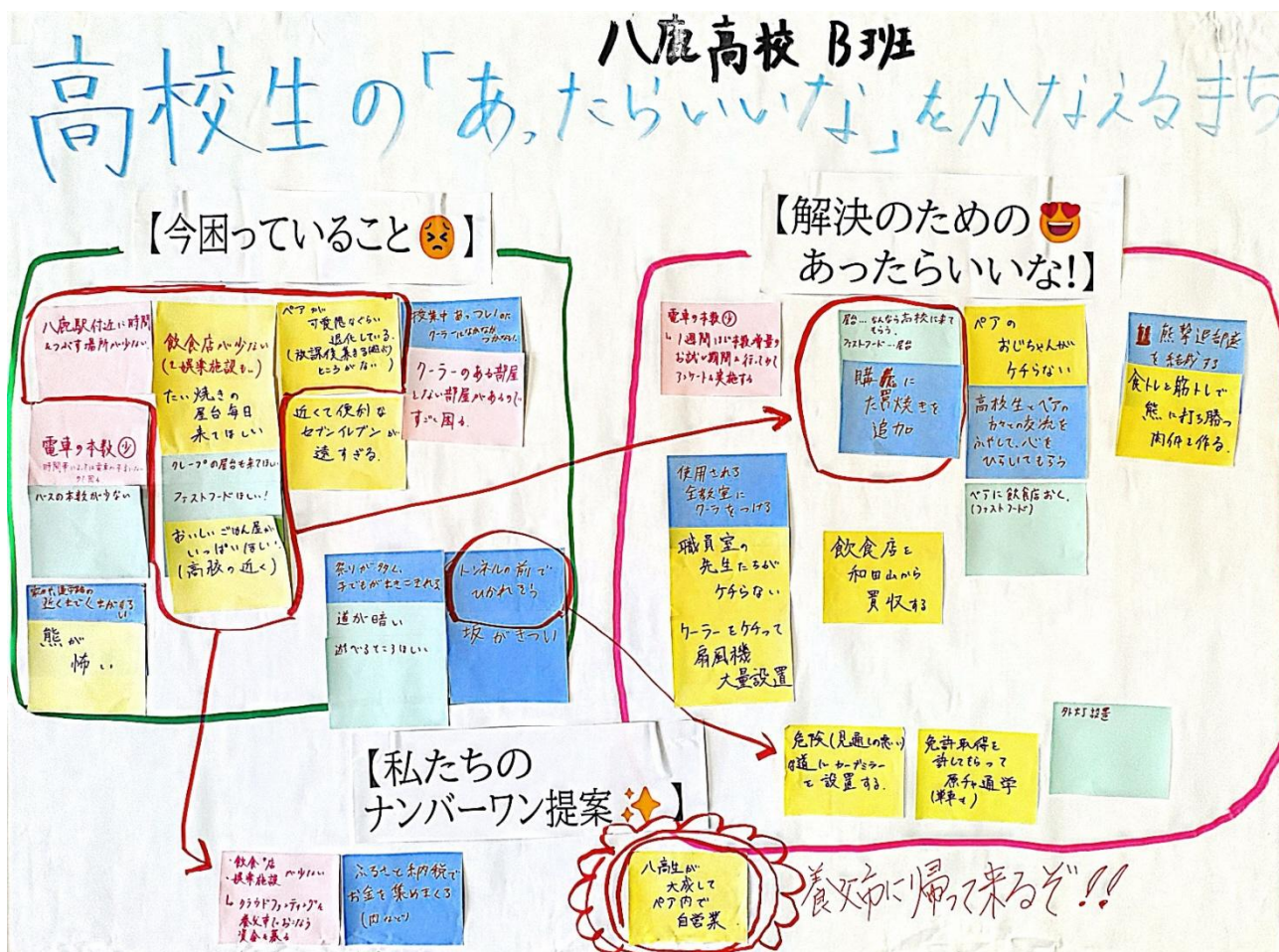
産業・観光

- ・市内産物のブランド化とメディア露出、SNS等の活用。観光資源の活用やイベント、体験事業。
- ・都市部から来たいと思われる特産品やおいしい店、店舗の宣伝。
- ・空き家が多く、ホテルとしての活用や空き家バンクの拡充。

学校・地域

- ・定住したいと思えるまちづくり。地域の人との交流。
- ・子どもが少なく、小学校の統合は寂しい。

グループB



【出された意見・アイデア】

（今困っていること）

- ・八鹿駅付近に時間をつぶす場所が少ない ・飲食店が少ない（娯楽施設も…） ・たい焼きの屋台毎日来てほしい ・クレープ屋台も来てほしい ・ファストフードがほしい！ ・おいしいごはん屋さんいっぱいほしい（高校の近く） ・ペアが可哀想なくらい退化している（放課後集まる、遊ぶところがない） ・近くて便利なセブンイレブンが遠すぎる
- ・授業中、あつつのくにクーラーがなかなかつかない ・クーラーのある部屋とない部屋があるので、すごく困る
- ・電車の本数「少」、時間帯によって本当にないので困る ・バスの本数が少ない
- ・家や通学路の近くまでクマがいる ・クマが怖い
- ・祭りが多く、子どもがまきこまれる ・道が暗い、遊べる場所ほしい ・トンネルの前でひかれそう
- ・坂がきつい

（解決のためのあったらいいな！）

- ・電車の本数少ない、1週間ほど本数増量のお試し期間を行ってみてアンケートを実施する
- ・屋台…なんなら高校に来てもらう、ファストフード屋台 ・購買にたい焼きを追加 ・飲食店を和田山から買収する。 ・ペアに飲食店おく（ファストフード） ・ペアのおじちゃんがケチらない
- ・高校生とペアの方々の交流をふやして心を開いてもらう
- ・使用される全教室にクーラーをつける ・職員室の先生たちがケチらない ・クーラーをケチって扇風機大量設置
- ・クマ撃退部隊を結成する ・食トレ・筋トレで熊に打ち勝つ肉体を作る
- ・危険（見通しの悪い）道に街灯・カーブミラーを設置する ・免許取得を許してもらって原チャ通学（単車も） ・外灯設置

（私たちのナンバーワン提案）

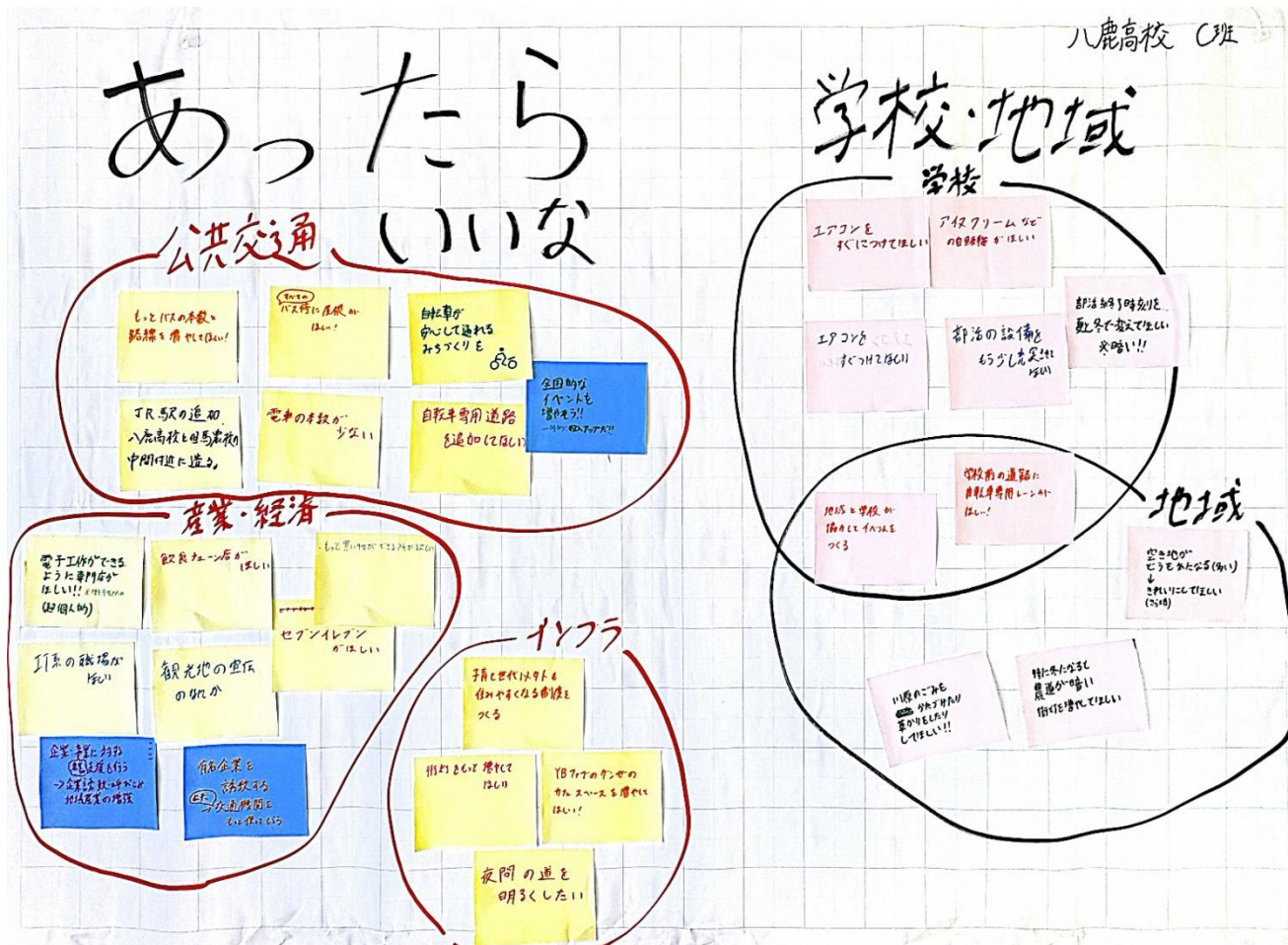
- ・飲食店、娯楽施設が少ない⇒クラウドファンディングを養父市で行い資金を募る
- ・ふるさと納税でお金を集めまくる（肉など） ・八高生が大成してペア内で自営業
- ・養父市に帰って来るぞ！！

【グループBまとめ】

- * 高校生の通学に対する公共交通機関の利便性向上や自転車通学での危険箇所への対応の必要性。
- * 若者の居場所づくり（特に気軽に利用できる飲食店）には、昨年の但馬農高での意見交換会でも強い要望があった。八鹿高校前には「ペア」があるが、空き店舗の再利用で、地域活性化と社会的課題の解決を同時に進める可能性はないのか。
⇒クラウドファンディングの導入の意見も出て、養父市からの補助金等の利用で官民連携の取り組み
- * 高校生が「自分たちにもできることはないのか」を真剣に考えてくれて、
“養父市に帰ってきて起業するぞ！！”の発言も飛び出し、養父市への愛着を感じ、その気持ちに答えられるような支援の必要性を感じた。

※高校時代に「自分たちの声で地域づくりに関わった」「温かい居場所があった」という体験が、将来のUターンや地域への愛着に直結するのではないかな。

また地域への愛着心を育むことは、地域の祭りやイベントに高校生が駆り出されるのではなく、自主的に参加したり、盛り上げていくような意識改革に繋がると考える。



【出された意見・アイデア】

(公共交通)

- ・もっとバスの本数と路線を増やしてほしい! ・全てのバス停に屋根がほしい! ・J R 駅の追加、八鹿高校との但馬農高の中間付近に造る
- ・電車の本数が少ない
- ・自転車が安心して通れる道づくりを
- ・自転車専用道路を追加してほしい
- ・全国向けのイベントを増やそう! 一時的に収入アップだ!!

(産業・経済)

- ・電子工作ができるように専門店がほしい!! (超個人的) ・I T 系の職場がほしい
- ・企業・事業・農業に対する支援を行う→企業誘致・呼び込み、地域産業の増強
- ・飲食チェーン店がほしい ・セブンイレブンがほしい ・もっと買い物ができる場所がほしい
- ・観光地の宣伝のなにか ・有名企業を誘致する、公共交通機関をもっと使ってもら

(インフラ)

- ・子育て世代以外も住みやすくなる制度をつくる ・Y B ファブのグンゼカフェスペースを増やしてほしい!
- ・街灯をもっと増やしてほしい ・夜間の道を明るくしたい

(学校・地域)

- ・エアコンをすぐにつけてほしい ・アイスクリームなどの自販機がほしい ・部活の設備をもう少し充実させてほしい
- ・部活終了時刻を夏と冬で変えてほしい、暗い!
- ・地域と学校が協力してイベントをつくる ・学校前の道路に自転車専用レーンがほしい!
- ・空き地がどうにも気になる (多い)、きれいにしてほしい (更地) ・特に冬になると農道が暗い、街灯を増やしてほしい
- ・川原のごみを片づけたり草刈りをしたりしてほしい!!

【グループCまとめ】

生徒のみなさんからは、養父市が今後活性化して、市民生活環境の都会並みへの希望等が寄せられた。その内容は、将来市民生活にとって必要な部分（若者にとって魅力的なもの）があり、時代の流動的な変化を考えさせられるものでした。

八鹿高校生との意見交換会は、昨年同様にワークショップ形式で3つのグループに分かれて行った。今回のテーマは、高校生に一步近づいたものとなっており、生徒も事前に話し合いを持ち意見交換会に臨んでいた。

今回もたくさんの意見をいただいた。各グループから出された提案等を次のように集約した。

1. 公共交通・店舗不足・空き家・地域コミュニティの希薄化など多くの課題の根本原因は「人口減少」にあるとの認識から、大切なのは人を増やすことで、都会の子育て世代への働きかけも必要。
2. 公共交通の課題は、デマンド交通の実現と待機場所の整備で解決を図る。
3. イベントで地域と高校生が連携するなど、高校生と地域の人との関わりを増やす。
4. 空き家の対策は、空き家バンク制度の工夫とゲストハウス化の促進。
5. 学校周辺の危険箇所調査と街灯・カーブミラー設置、自転車専用レーン整備。
6. 学校設備の改善（全教室エアコン整備・アイス自販機設置など）。
7. 養父市特産品のブランド化と飲食店での活用、さらにSNSでの発信強化。
8. 養父市固有の自然の体験やその魅力を発信。
9. 店舗や企業の誘致と雇用創出のためのインセンティブ設計（補助金・税の優遇など）が必要。

議員との意見交換が、高校生諸子の視野を広げ、今後の地域や彼らの人生を考えるきっかけになれば希望が生まれる。アーバンライフ（都会的な利便性）を求める声は常にあるが、地方として譲れない部分を考え、新たな価値を生み出す発想を促したい。

議員は、生徒たちの小さな気づきを施策として掬い上げる力を磨いていきたい。

高校生との意見交換会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和8年8月27日

報告者 班長 藤原 芳巳